

平成 22 年 7 月 13 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、ヒノキ 4m 材を除き品薄感は完全に払拭。虫害など丸太の傷む時期を迎えて、製材工場は当用買いに徹しており、スギ、ヒノキ柱材の引き合いは弱い。しかし、ヒノキ中目材のみ依然として引き合いが強く、動きは好調。価格は、続伸していたスギ柱材が、虫害材を嫌った大手工場の消極的な手当て姿勢により、スギ中目材と同様に弱含みでの展開。一方、ヒノキは、柱材がスギ同様弱含みに転じ、中目材は引き続き強保合で推移している。群馬は、原木入荷・集荷とも順調で、一部の工場では販売も順調、フル生産のところもある。価格はスギが依然低迷しているが、他は原木アップに応じて値上げしている。住宅の受注が大手以外は厳しい状況におかれており、製材も零細工務店が主な取引相手となっているところは、仕事が非常に少ない状況。

2. 米材

5 月の米国新設住宅着工数は、前月比 10%減の年率 59.3 万戸となった。米国の 7 月積みの丸太は、中国の買いが依然旺盛だが、価格は頭打ちで保合。また、カナダ丸太はセカンドグロスが保合、オールドは強保合。6 月の港頭在庫は約 4,500 万スクリブナー(約 20 万 m³)で前月とほぼ同様。また、ウェアハウザー社の 7 月積み米マツ IS ソートは据え置き。米材丸太は入・出荷が減少傾向で在庫は増加。大型港湾製材工場の 6 月の荷動きは、工場によってバラツキはあるが概ね前月並、また、内陸部製材工場の荷動きは、依然低調で回復の兆しは見えない。

一方、製材品は、荷動き低迷のところ、予想より多い入荷 (SPF 製品、米梅梱包材、米マツ角) で在庫は増加。産地の状況は米国住宅購入減税が 4 月で終了、5 月の住宅着工が減少したこと等から、SPF 産地価格は急落。さらに、ここにきて景気の先行き警戒感から、製材工場は夏場に向けて一時休止し、生産調整に入る。産地価格は SPF 急落で価格の高い日本向けの価格交渉が注目される。また、米梅製品は生産量が少なく据え置き。相変わらず日本市場を無視した長さ、寸法の製品を押し付けてくるので、不良在庫化して流通は泣かされる。

3. 南洋材

サバ州は、天候不順に加え伐採規制が強化され出材は大幅に減少。製材用の良材は極端に少なく、平割等の製材品相場はかなり強く、合板用の原木も強含み。サラワク州は、サバより悪天候で出材は激減。港頭在庫は少なく本船の滞船が散見。合板工場は消費国からの旺盛な引き合いにもかかわらず、原木の入荷が不調でそれに応じられない状況。したがって原木相場は引き続き強含み。PNG・ソロモンの出材状況は相変わらず悪く、相場は強含み。丸太の入荷はやや減少、出荷は横這いのため在庫はやや増加。合板用原木は在庫調整が終わり荷動きが見られるが、製材用原木は低迷。製材品は、引き続きFOBが全製品に対してアップとなっており、いかに転嫁できるかが課題。今まで仕入れを控えていた平割類に引き合いが多く荷動きが良くなった。

4. 北洋材

今年も6月からアムール開港。カラマツの5月オファーはCIF160\$/m³と極めて強気だったが、中国国内は過剰在庫気味で引き合いが減少し、北米材及び国産スギにシフトを進めている合板メーカーからは敬遠され、6月中旬には同145\$/m³まで下落した。この価格に一部メーカーは興味を示したが成約に至らず、このまま下がると予想されたが、国産材不足を背景に一部メーカーの買いが入り、これに反応したシッパーは再度150\$/m³を提示。産地価格は、中国国内の在庫調整も進み、アムール川就航船舶も限定的であることから、今後暫くは横這い若しくは若干強含みで推移すると予測。富山港・富山新港の6月丸太入荷は、19,295 m³(アカマツ7,308 m³、エゾマツ11,987 m³、カラマツ0)と先月比16%減。製品は4,789 m³で先月比68%減。丸太はエゾマツ、アカマツ、アカマツ原板とも引き続き在庫減少し荷動き良い。製材品は輸入製品、国内挽き製品ともに荷動きは悪い。在庫は1.5ヶ月である。国内製材工場は生産調整中で、丸太挽き、原板挽きともに不採算。

5. 合板

合板用丸太は、国産材、北洋材とも引き続き強保合。南洋材は産地の原木不足と丸太消費国の旺盛な買付の影響で続伸しており、これまでメーカー側は消極的な手当てが続いていたことから、原木在庫はタイト感が出ている。5月の国内の合板生産量は約21.4万m³で、うち針葉樹合板は18.4万m³(対前年同月比130%)で、今年に入り毎月増加していた生産量は、漸く先月を下回った。出荷量は18.9万m³(同132%)と好調を維持したため、在庫量は15.6万m³まで減少した。国産南洋材合板は、荷動き低調な中、価格はじり高の展開。針葉樹合板は、メーカー主導により値戻しが継続。荷動きは直需とルートで差が出ており、好

調な直需に対しルートは先月までの勢いはなくなった。一方、輸入合板は、盛り上がりには欠けた荷動きが続き、全般的に強保合だが価格転嫁は遅れている状況。先行き国産、輸入合板ともに品目によって速度は異なるが、強含み展開は続く見通し。特に輸入合板は、依然として産地での下落要因は見当たらず、すでに高い玉が入荷し始めているため、川上での価格転嫁が進行することが予想される。

6. 構造用集成材

原料の入荷は、フィンランドのストライキ明けの出港が順調で、契約分に関しては入荷が顕著になっている。しかし、次のオファーに関しては、原木不足により数量が減少し、各社とも年末に向けて十分な数量を手当てできるか微妙となっている。特に、WWの原料については生産調整が進み供給量が減少。間柱及びパネル用原板も絶対量が少なく、秋需対策が課題。国産RW、WW梁桁は依然として品薄気味だが、柱は落ち着きつつある。全般的に荷動きは良く、販売は良好で在庫は少ない。集成材価格は、欧州の原木価格の上昇とフレート、円高が影響し、第2クォーターに比べ10%値上げ。一方、輸入集成材は、原料と同じく急激な値上がり。現地では日本のマーケットの動向をみて価格提示している。8～10月にかけての契約分は、60,000円/m³前後と思われ、管柱に関するも相場を見ての契約となっている。輸入集成材に関しては海外数社のメーカーが増設に動いていることから、日本の動向次第では供給過多になることも予想される。

7. 市売問屋

構造材は、梅雨に入り荷痛みの懸念から、国産材、外材ともに買方の在庫意欲乏しく、依然として低調。造作材は、国産材がスギ、ヒノキとも低調。外材はスプルース、ピーラーの良材が引き続き在庫薄で、引き合いあるも対応に苦慮。買方は必要当用買いに終始し、特殊品以外は低調に推移している。新設住宅着工数は伸びておらず、依然として厳しい状況が続いているので、政府の景気対策の効果を今後期待したい。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱は強含み、ヒノキKD柱・土台は変わらず。米ツガKD平割、正角ともじり高。欧州材間柱は変わらず。ロシアアカマツは国内原板挽き3m材不足気味、輸入製品少なく値段上げ。WW、RWの集成材は梁、柱ともに強いが、柱は不足感が無くなり、梁は品薄のため価格上昇。合板は針葉樹全品目で高く、ラワン合板も強い。床板は変わらず。プレカット工場の受注・

加工は順調に推移。工務店は、大工仕事の少ない屋根葺き替えや外装塗装等リフォームが多くなっている。新築の見積もりはあるが、決定率が低調。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

事業名：林野庁補助事業「木材利用促進のための市場情報集積提供事業」

事業実施主体：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク